開催地名：青森県弘前市	
開催日時	令和５年１月 28 日（土）　　10：00　～　11：30
開催場所	弘前市民会館
語り部	山縣　嘉恵　　（宮城県東松島市）
参加者	弘前市防災マイスター　　60 名
開催経緯	当市は、過去の災害経験が少なく、市民の防災に対する意識も決して高いとは言えない状況にあるため、市民全体の防災に対する意識を高めることと、市民の中から地域防災の推進者となる防災リーダーを育成していくことが課題となっている。
内容	（１）はじめに 私が住む東松島市は、桃生郡矢本町と鳴瀬町の合併（平成の大合併）によって 2005 年に発足した。西側に松島町が隣接し、仙台市と石巻市の間に位置しており、ブルーインパルスで有名な航空自衛隊松島基地が近くにある。 2011 年３月 11 日の東日本大震災では、津波の襲来で、市内全住宅の３分の２を超える約 11,000 棟が全半壊した。正確な人的被害状況は、死者（東松島市民）1,110 人（震災関連死 66 人を含む）、行方不明者 23 人、東松島市内での遺体収容数 1,067 人　（うち 東松島市民 963 人、市民以外 102 人、身元不明遺体 2 人）となっている。野蒜海岸では 10.3 メートルの津波が観測された。私が住む野蒜地区では、東側の石巻湾から押し寄せた津波が内陸２キロ弱を横断し、西側の松島湾に流れ込んだため、野蒜小学校の体育館で 13 人が、特別養護老人ホーム「不老園」の入所者 56 人が亡くなるなど、壊滅的被害を受けた。市内の指定避難所は 106 箇所に及び、15,000 人以上が避難所生活を送った。 野蒜地区では、震災前に 4,700 人いた住民のうち、511 人が犠牲となった。震災後の暮らしは選択の連続で、仮設住宅もしくは「みなし仮設」、他地区への移住等の選択を経て、野蒜ヶ丘防災集団移転団地が設置されたが、現在人口は 2,700 人ほどにまで減少している。 （２）東日本大震災時の状況 地震発生時、私は自宅に、息子は小学校に、義母は自宅の離れに、夫は勤務先にいた。2003 年にあった宮城県沖地震（宮城県北部沖地震）後、我が家では家具をＬ字型金具で固定したり、家具の上にモノを置かないことを徹底していたので、幸いにして家具の転倒はなかったが、経験したことのない大きな揺れが３分程度は続いた。津波が来ることは予想していたが、1960 年のチリ地震津波同様、到達まで時間的余裕があると誤った認識を持っていたために、義母を置いてまずは息子を迎えに小学校に向かった。そして息子を引き取って一旦地区センターに待たせておき、義母を自宅に迎えに行って、そして地区センターで３人一緒に合流してから避難所である野蒜小学校の体育館に向かった。 野蒜地区には、西から東に東名運河が流れており、避難所の野蒜小学校は運河の北側、自宅は南側（海側）にあった。野蒜小学校までは野蒜海岸から直線距離で 1.2 キロ（自宅までは 600 メートル）あり、この運河の北側までは津波が来ないと思い込んでい

	た。避難所に着いた私たちは、既に体育館は避難してきた住民でいっぱいだったため、中には入れずにいた。その時、海側から黒い津波が運河を越えて小学校に向かってくるのが見えたため、校舎に向かって走った。私たちは津波から免れたが、体育館にいた避難者の一部に犠牲者が出てしまった。 　多くの命が失われた悲劇がある一方で、津波から命を救った素晴らしいエピソードも存在する。「津波なんてここまで来るわけがない」。そう言われながらも、野蒜地区の佐藤善文さんは自宅の裏山を私財を投じて購入し、約 10 年がかりで山の上に避難所を造った。日頃、山は「佐藤山」と呼ばれ、時に変わり者と呼ばれながらも、1,000 人以上が死亡した宮城県東松島市で、この場所が約 70 人の命を救った。 　また、阪神大震災を経験した方が、野蒜小学校等東松島市内の避難所を回り、避難者のメッセージをデジカメで撮影してアップしてくれていた。これにより、家族や知人が生きていると確認することができた人がたくさんいた。混乱を極める災害現場での、災害経験者による実に有難いエピソードである。 （３）まとめ 　この震災を経験しての思いは、何も知らなかったなという「反省」、自分たちは助かったが、できればみんなで助かりたかったという「後悔」、そして平時に備えられることが多いという「気付き」である。是非みなさんも、避難行動についての準備を行うことで、いつ起こるかわからない災害に備えてほしい。 　今を生きる私たちが未来のためにできることは、伝承していくことであり、伝承から学び、行動を起こすことである。命を大切にすることは、防災に取り組むことであり、人を大切にすることであり、人づくり・街づくりをすることである。未来へつなぐため、命を守るための伝承につながることを祈念したい。
開催地より	防災に取り組むことは命を大切にすることであり、それは人づくりやまちづくりにつながるということを改めて認識することができたと思う。弘前市内各地域での防災活動力の向上と、安全で安心な地域社会の実現のための活動推進を強化していきたい。